

▶ 第5章

# 「脱・中国依存」を模索する台湾経済

## ——頼政権の戦略と課題

日本経済新聞社 台北支局長

羽田野 主

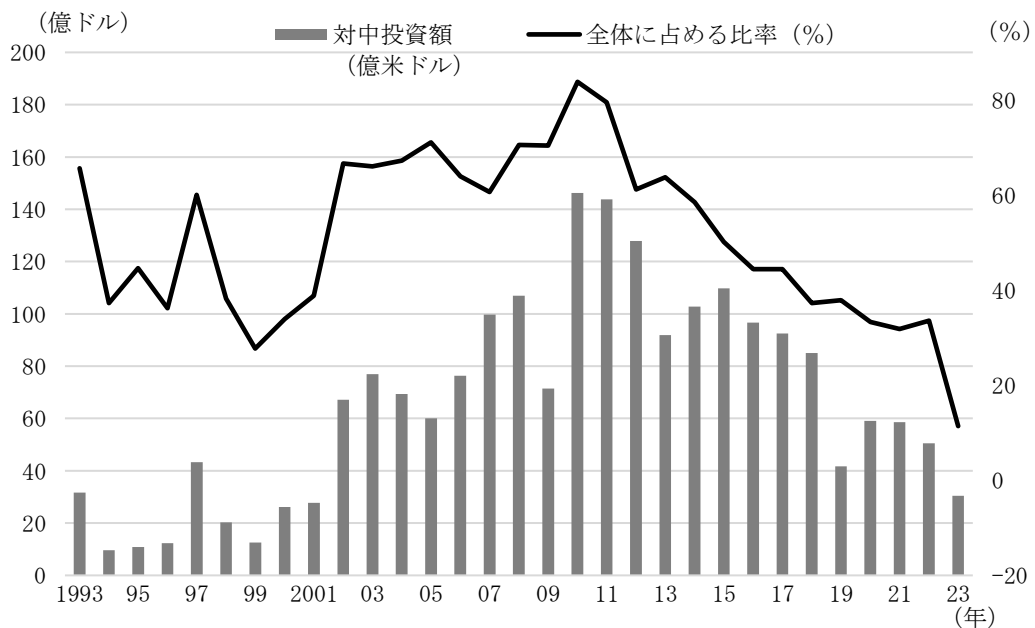
### 【ポイント】

- ▶ 新たな台湾総統に選出された民進党の<sup>ライチンドオー</sup>頼清徳氏は宣言こそしないものの「独立志向」をもつ政治家だ。中国依存リスクを警戒し、台湾企業に中国からの脱却を働きかけていく見通し。<sup>ツァイインウエン</sup>蔡英文氏の<sup>ツァイインウエン</sup>新南方政策に日本を加えた形でさらに発展させていくとみられる。
- ▶ 世界の半導体産業をけん引する台湾積体電路製造（TSMC）も米中対立や頼政権の動向をにらみつつ、中国離れを進める。台湾を代表する名門企業の鴻海は工場などの非流動資産の中国の占める割合を下げている。
- ▶ 頼政権にとって最悪のシナリオはトランプ前米大統領の復活だ。バイデン米政権が築いた米国・日本・オーストラリア・インドなどの対中包囲網が分断されれば、中国の台湾への圧力はさらに増大しやすくなる。



注目データ

台湾の対中投資額と全体に占める比率の推移



資料：台湾経済部のデータをもとに著者作成、認可ベース